



祝 辞

第34回沖縄青少年科学作品展が開催されるに当たり、お祝いの言葉を申し上げます。

沖縄電力株式会社におかれましては、34年にわたり沖縄青少年科学作品展を主催され、青少年の科学に対する興味・関心を高め、沖縄県の科学教育の振興に資するとともに、優れた人材の育成に貢献されていることに対し、心から感謝申し上げます。

また、本日、表彰を受けられる皆さん、誠におめでとうございます。皆さんの作品は、いずれも創意工夫が凝らされており、努力を重ねてきた成果が表れた、大変素晴らしいものとなっています。皆さんには、科学的な好奇心や探究心、作品を作り上げる中で得られた努力する力を持ち続け、新しい時代を切り開く人材として成長されることを願っております。

沖縄県においては、科学技術の振興や多様な人材の育成を重点施策として掲げ、様々な事業に取り組んでおります。また、今秋には、自然科学系の分野において、世界最高の研究・教育水準を有した沖縄科学技術大学院大学が開学されます。この沖縄青少年科学作品展を契機に、将来、皆さんが同大学院大学への進学など科学の道へ進まれ、科学者や技術者として国際社会に貢献されることを期待しております。

結びに、沖縄青少年科学作品展のますますの御発展を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。

平成24年2月11日

沖縄県知事 仲井眞 弘 多



ご挨拶

本作品展は、本県青少年に科学作品や研究成果を発表する機会を与えるとともに、科学への興味・関心を高め、作品づくりや研究を通して、夢や希望を育むものであり、主催者の沖縄電力株式会社には、深く敬意を表します。

受賞された皆さん、誠におめでとうございます。本日の受賞は、皆さんが日頃から「なぜだろう」「どうしてだろう」といった疑問や、不思議に思ったことを解明しようと取り組んだことが高く評価されたものであります。皆さんの科学を探究する心に大変感動いたしました。また、御指導された先生方、そして常に励ましてくださっている保護者の皆様には、心からお祝い申し上げます。今年の入賞作品を見ましても、豊かな発想とアイデアにあふれた作品や、長期間にわたってねばり強く研究を続けたレポートなど、いろいろな視点から取り組まれており、どの作品も内容や表現に工夫が見られ、皆さんが熱心に取り組んだ成果には目を見張るものがあります。きっと、見学する方々を感動させてくれるものと確信しております。

さて、昨年3月に起きた東日本大震災は、被災地域だけではなく、遠く離れた本県にとっても、大きな衝撃をもたらしました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げ、より早い復興を願っております。今回の「東北地方太平洋沖地震」はマグニチュード9.0という1000年に1度起こるような巨大地震でした。地震発生はこれまで予想もつかなかった地震の仕組みなど新たな科学的知識の深まりや、地震防災の取組みに変化をもたらしました。また、人と自然との共生は、困難に直面しても諦めることなく、状況を的確に捉え、自ら行動する力が重要であることの教訓が得られました。この教訓は、学習指導要領で提唱されている「生きる力」を身につけるとともに、「自立、協働、創造」を目指した教育を進める必要があることを示しています。

沖縄県教育委員会におきましても、次世代を担う人材育成の一環として、理数教育の充実を図り、児童生徒の皆さんが、郷土の自然を愛し、楽しく科学を学ぶようにするため、地域の自然や文化遺産など地域素材の積極的な教材化を推進するとともに、高校生を対象とした「科学の甲子園全国大会」の沖縄県予選を開催するなど理科教育の充実・発展に努めているところです。

受賞された児童生徒の皆さんには、本日の受賞の喜びと感激を忘れることなく、科学する楽しさや未知の世界を探究する心、最後までやり遂げるねばり強い態度をこれからも持ち続けて頑張っていたきたいと思います。

むすびに、この事業のために多大な御尽力を賜りました沖縄電力株式会社をはじめ、運営委員の皆様、並びに関係各位に心から感謝を申し上げ、あいさついたします。

平成24年2月11日

沖縄県教育委員会
教育長 大城 浩



主催者挨拶

第34回沖縄青少年科学作品展の開催にあたり、ご挨拶申し上げます。

毎年、発明王トーマス・エジソンの誕生日にちなみ、2月の第2週目に開催しております本作品展も、今年で34回を数えます。応募数の増加や作品レベルの向上に伴い、今や沖縄を代表する科学作品展となりました。これも、沖縄県内の児童・生徒の皆さん、学校関係者の皆さまをはじめ、関係各位の多大なるご支援・ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

今回も多くのお応募があり、いずれの作品も素晴らしい出来栄でした。特に優秀と認められ、本日、表彰を受けられる児童・生徒の皆さん、おめでとうございます。また、ご指導された先生方、お子様達を励まし、温かく見守ってこられたご父母の皆さま、おめでとうございます。

昨年は東日本大震災という大きな災害に見舞われました。これを機に、日常生活での省エネ意識が、これまで以上に浸透しています。また、自然エネルギーの利用拡大についても関心が広がり、これからの日本の復興・発展のために、更なる技術開発や新しい発想の転換が求められています。

皆さんには、キャッチコピー「僕のひらめきは無限大！」をイメージした今回のポスターにありますように、電球を発明したエジソンのようなひらめき・発想と努力し続ける心を常に持ち、科学に対する関心をますます深めていただければと思います。

私たち沖縄電力も、皆さんのそのひらめきや発想が、私たちの心や生活を明るく照らすものとなることを願い、これからも、本作品展を通して沖縄県の科学教育の振興と人材育成を応援してまいります。

最後に、ご多忙の中、本日までご臨席を賜りましたご来賓の方々、本作品展に多大なご協力をいただきました沖縄県、沖縄県教育委員会、アメリカンスクールを含め理科教育に携わる多くの先生方、並びに関係各位に心から感謝申し上げ、主催者の挨拶といたします。

平成24年2月11日

沖縄電力株式会社

代表取締役社長 石嶺 伝一郎



実行委員長あいさつ

第34回沖縄青少年科学作品展の開催にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年、日本では東日本大震災という痛ましい出来事がありました。復興のために日本全国がひとつとなって、新しい未来の構築に向かっています。この新しい未来は、皆さんが持つ可能性や夢が作り上げていくものです。これからも、科学に対する探究心とひらめき・発想を大切に育てていただきたいと思います。

今年の作品展には、小・中・高等学校、高等専門学校、アメリカンスクールから、総数134点もの応募がありました。いずれも、日々の生活や、沖縄ならではの自然に対して抱いた素朴な疑問に対し、地道な観察を重ねた力作ばかりです。小・中学校部門には、各学校における審査の後、各地区の作品展を経て、「沖縄県児童生徒科学作品展」で優秀と認められた作品が展覧されています。高校部門には、優れた観察眼と分析力に目を見張る作品が多く、沖縄から全国、世界へと羽ばたき、評価を得ている作品もあります。アメリカンスクールからは、日本の生徒とは一味違う、ユニークな発想と着眼点で取り組んだ作品が集まりました。

このような素晴らしい作品の中から、めでたく表彰を受けられる児童・生徒の皆様、ご指導が評価され指導者奨励賞を受けられる教師の皆様、誠におめでとうございます。日頃から熱心にご指導された先生方、ご父母の皆様にも改めて敬意を表したいと思います。

今回も、全入賞作品の展示に加え、県内の小・中・高等学校の先生方による、楽しい劇と理科実験の「科学実験ステージショー」、行列ができるほど人気の高い「チャレンジ実験コーナー」、ロボットコンテストの全国大会で上位入賞を果たしている学校が展覧する「ロボット競技コーナー」、電気ができる仕組みを発電所の模型や実験を通して学べる「電力・エネルギーコーナー」を設けております。

本日2月11日は、トーマス・エジソンの誕生日です。発明王エジソンにとって科学は身近で楽しいものであり、人生の一部でもあったと思います。本作品展を通して、皆さんに科学は難しいものではなく、身近で楽しく、興味深いものであると実感していただくと共に、本作品展が沖縄県の科学教育の発展の一助となれば幸いです。

最後に、本作品展の開催にあたり、多大なご支援・ご協力をいただきました沖縄県、沖縄県教育委員会、小・中・高等学校およびアメリカンスクールの理科教育に携わる先生方、ならびに関係各位に心から感謝申し上げます。

平成24年2月11日

沖縄青少年科学作品展
実行委員長 知念 克明
(沖縄電力株式会社 常務取締役)